

KIBO NO NIJI きぼりの虹

夏号

発行所

北海道大学生協同組合
札幌市北区北8条西7丁目
教職員委員会編集
電話 011-746-6218



北大生協も、北海道大学創基150周年グッズでお祝い！

北海道大学生協同組合の皆様には、日頃より本学学生の生活支援をはじめ、教育・研究活動全般にわたり格別のご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

1. Beyond 150の北海道大学へ
本学は2023年に「HUVISION 2030」を策定し、持続可能なWell-being社会の実現を掲げるとともに、「New Japan University」という新たな大学像を提示いたしました。これは、「戦略的総合融合研究大学」と「壮大な地域創生装置」の二つの機能を併せ持つものであり、北海道における再生可能エネルギー、食料生産、デジタル社会の取組を通じて、世界的課題の解決に貢献していく決意を示したものです。

そして2026年、本学は創基150周年という大きな節目を迎えます。この節目を新たな出発点として、これまでの歩みを未来へとつなぎ、次の150年に向けた挑戦を力強く進めてまいります。

2. 北大生協への期待
本学の将来を支えるのは学生にほかなりません。約1万8千人の学生が学ぶ本学において、北大生協は

「Be Ambitiousの精神を未来へ」
Opinion!
北海道大学第20代総長 寶金 清博



「Be Ambitious」の精神は、学生のみならず大学そのものに向けられたものであります。この精神のもと、教育・研究・社会実装を通

今後本学と理念を共有するパートナーとして、新たな価値創造の担い手となつていただくことを心より願っております。

生活基盤であると同時に、学びと交流を育む重要な場です。長年にわたり築いてこられた活動は、学生生活を支えるとともに、本学の発展に不可欠な存在となっております。AIの進展により高等教育を取り巻く環境が大きく変化し、個性や効率性が一層重視される現代において、人と人が出会い、新たな価値が生まれる場としての役割は、今後ますます重要になるでしょう。

結びに、北海道大学生協同組合のさらなるご発展と、関係各位のご健勝を祈念申し上げます。



主な記事紹介

三面 緑ゆたかなキャンパスを守り、引き継ぐために

四面 大学文書館へ行くこう 第28回

八面 北大生協きぼりの虹フォトコンテスト開催!!

北海道大学大学院 愛甲 哲也
農学研究院 教授
北海道文書館 井上 高聡

通常総代会開催報告

2026年度総代会を
5月20日(水)に開催し
ました

5月20日(水)クラーク会館講堂にて、北大生協2026年度通常総代会が開催されました。総代数203名(本人出席87名、代理人出席0名、書面出席116名)の参加により、全ての議案が賛成多数で承認・決定されました。

2025年度総括、
2026年度計画と
予算を決定しました

議長に井野田さん(理学部2年)を選出し、坂爪理事長(農学研究院教員)が生協理事会を代表して挨拶しました。続いて田所常務理事(理学部3年)と齋藤専務理事より第116号議案を提案、芳賀監事会議長(先端生命科学研究院教員)が監査報告を行い、質疑・討論に入りました。総代6名から発言がありました。「住まい事業は仲介だけなのか」「クラーク書籍縮小後の運営計画」「24時間営業店舗でのチャージ機設置」などの質問があり、齋藤専務理事より一つひとつ

回答し、最後に坂爪理事長よりまとめがありました。(その他事前に寄せられた意見や質問については総代会報告集としてWebサイトでご覧いただけます。)

討論終了後、採決を行い、全議案が賛成多数で承認・決定されました。

また役員選挙は定数内の理事会推薦者全員の当選が、役員選挙管理委員会より報告され、下記の役員の就任を確認し、以上もって全ての議事を終了しました。

議事終了後、参加者総代は「総代の集い」としてクラーク食堂に移り、軽食を摂りながら総代同士、生協職員と交流を深めました。

2026年度事業計画

2025年度は単年度赤字を達成しましたが、累積赤字は1億5千万円あまりとなり、引き続き厳しい経営状況が続いています。2023年度に掲げた再生3カ年計画未達に終わったことを受けて、2035年度の累積赤字解消を見据え

て、年次更新で運営を進めていきます。この間新学業では新学業アドバイザーが自分の経験を活かして後輩である新入生への提案を強めるように、人と人とのつながり、協力を強めることで価値を生むことを大切に、事業再生に取り組んでいきます。みなさまの積極的なご意見と参画をお願いいたします。



2026年度 理事会・監事会 名簿

渡戸 爽斗	山崎 陸	岡野 瞳	芳賀 泰樹	監事	齋藤 斗	高岸 知	神蔵 大	梅本 和	坪内 樹	福田 梨	福嶋 柳之丞	岡田 唯花	田所 和廉	山下 匡隆	松田 和歩	榊井 太智	渡邊 稀羅	中野 翔太郎	田代 直也	里藤 眞理子	佐藤 哲生	川上 あき	渡部 典大	今村 忠央	林 美香子	小川 眞行	金川 眞廣	齋藤 眞史	坂爪 浩史	(理事)		
新任					新任	新任	新任	新任	新任																							

いじわるじいさん

3月、スイスで街や丘を歩いた。旅先で印象に残ったのは、公衆トイレ事情である。駅など多くが有料で、街中の大型店の無料トイレはありがたかったが、郊外にはそもそもトイレが見当たらない▼かつてアメリカで、買い物した客にだけ鍵を貸す店に出会った。空港の個室のドアは上部と下部がなく、外から足元が見える。便座が壊れ、使えない所にも遭遇した。日本の清潔で無料の公衆トイレは、世界に誇れると実感した▼だが、ひとたび災害が起れば事情は一変。2024年1月の能登半島地震では、直接死が約230人だったのに対し、災害関連死は286人に上った(内閣府)。下水管破損で排水ができず、汚物があふれるトイレパニックが発生した。トイレを避けるために水分摂取を控え、持病を悪化させる例も少なくなかった▼一方、同年4月の台湾・花蓮地震では、発災からわずか4時間で避難所の体制が整ったと報じられた。体育館にはプライバシーを守るテントが並び、トイレやシャワーも設置された。車椅子利用者への配慮も行き届いていたという▼体育館に雑魚寝状態だった能登半島地震の避難所との差は大きい。トイレパニックは発災後24時間以内に起こるとされる。頻発する地震に備え、被災者の命と尊厳を守る避難所の準備は急務である。(今日子)

順不同

緑ゆたかなキャンパスを守り、 引き継ぐために

前々号に毒性の疑いのある外来植物の対応について書かせていただきました。今回は、札幌キャンパスの緑地の保全と管理を定めている計画について紹介したいと思います。

北大のキャンパスと言えば、豊かな緑と歴史的建造物の調和がその特徴です。学生・教職員の憩いの場でもあり、国内外から多くの観光客が訪れます。ゆるやかな河畔の地形を保全する中央ローン、多くの動植物を育む恵迪の森と遺跡保存庭園、石狩低地帯を特徴付けるハルニレの巨木が現存するエルムの森などが保全されています。農場の防風・防雪のためのポプラ並木、125周年で再生されたサクシュコトニ川、メインストリートのハルニレの並木、北13条のイチヨウ並木は四季おりおりの美しい姿を見せてくれます。これらは、開学以来、学内の教職員・学生ら先輩方の努力によって引き継がれてきました。

しかし、教育と研究の場が大学キャンパスの役割ですから、新しい施設の整備のために樹木の伐採や緑地の縮小が伴う場合もあります。全国各所で報道されているように、大きく成長した樹木は老朽化と倒木のリスクを抱えています。前回紹介したような外来植物の侵入も多く、在来種保全の脅威となっています。様々な利用が緑地で行われるため、踏圧による樹木や芝生・草花の損傷もあります。

北大は全国に先駆けてキャンパスマスタープランを1997年に策定しました。その中で、自然資源の連続化と再生、大規模緑地の保全などが方針となり、サクシュコトニ川の再生につながりました。2001年の中央食堂周辺のポプラ・ハルニレの伐採計画は学内外で賛否をよび、生態系・景観・安全性に配慮した計画的な樹木管理の必要性が認識されました。2014年からは中央ローン・エルムの森で火器の使用や球技、自転車の乗り入れが禁止されました。現在は、2020年策定の「生態環境保全管理方針」に基づいて、札幌キャンパス内をゾーニング（区域分け）して保全と利活用をすすめています。

キャンパス内を、生態系の特性と施設の計画を考慮して、開発行為を禁止し将来にわたり保全する「生態保全緑地」（恵迪の森、遺跡保存庭園、サクシュコトニ川周辺など）、現状の景観への影響を最小限にとどめ、できるだけ現状を維持する「景観維持緑地」（正門周辺、中央ローン、エルムの森、大野池周辺、ポプラ並木と花木園、イチヨウ並木など）及び学内者が主に利用する「教育研究利用緑地」（生態保全緑地と景観維持緑地以外の非建蔽地・未舗装地、農場、運動施設など）に区分しています。また、本学の景観を代表する樹木、希少性の高い樹木、由緒ある樹木を「保存樹木」として指定し、保全をはかっています。

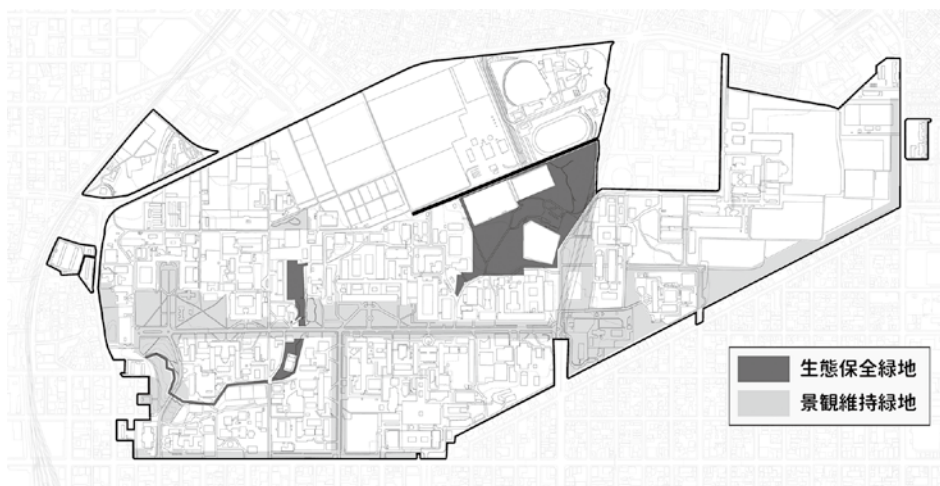
キャンパス内のどこがどのゾーンに入っているか、ぜひ一度見ていただきたいと思います。

<https://www.facility.hokudai.ac.jp/一般の皆様へ/生態環境保全管理方針>

今回は、この計画にもとづいて、どのような取り組みをしているかを紹介したいと思います。



北海道大学大学院
農学研究院・教授
愛甲 哲也



図：生態環境保全管理方針ゾーニング

アイヌ民族への敬意の表明
 二〇二六年三月二七日、北海道大学は、「北海道大学所在地の先住民族に対する敬意の表明」を公表しました。同表明には、表明の内容を端的に表現した「概要版」と、表明の根拠となる歴史的事実を明示した「全文版」の二種があり、それぞれ日本語・アイヌ語・英語の三言語により表記しています。概要版・全文版ともに、北海道大学アイヌ共生推進本部のWEBページに掲載しています。また、大学の正門脇の「北海道大学施設案内」の台座に、概要版の三言語の文章を刻んだ銘板を設置しています。大学を訪れる人が足を踏み入れる場所に銘板を設置したことは、この表



正門脇の「北海道大学所在地の先住民族に対する敬意の表明」銘板 (2026年)

明の持つ意味を象徴的に示していると思います。

ランド・アクトレジメント

「北海道大学所在地の先住民族に対する敬意の表明」は、北海道大学の「ランド・アクトレジメント」(Land Acknowledgment)です。「ランド・アクトレジメント」とは、「土地の承認」を意味し、先住民族が歴史的にその土地において生活と文化を営んできていることを、現在の土地の利用者が理解・承認し、敬意と感謝の意を表明するものです。アメリカ・カナダ・オーストラリア・ニュージーランドなど、移住者が「開発」「開拓」の名の下に、先住民族の生活領域、文化空間である土地を利用してきた地域の大学、企業、行政などが、

一九八〇年代以降、表明しています。北海道大学と縁の深いアメリカのマサチューセッツ大学アマースト校も、独自のランド・アクトレジメントを定めています。日本ではおそらく、北海道大学の今回の表明が、最初のもので、ランド・アクトレジメントは、例えば入学式・卒業式などの式典や、催し物において、学長が挨拶をする際に、冒頭で読み上げることが想定されています。機会があるごとに、先住民族への敬意を確認しようとする取り組みです。

札幌キャンパスの歴史を遡る

「北海道大学所在地の先住民族に対する敬意の表明」が触れている、札幌キャンパスの土地の歴史について遡ってみましょう。

現在の札幌キャンパスが北海道大学の前身校札幌農学校の敷地となる以前、一八七〇年代に「コトニ・コタン」と呼ばれるアイヌ民族が居住するコタン(集落)がありました。古地図などで確認すると、北方生物圏フィールド科学センターの札幌研究林札幌試験地(北八条西十二丁目)あたりが該当します。コトニ・コタンのアイヌ民族は、開拓使が札幌の都市形成を行なっていく過程で、移転を余儀なくされました。そうした土地が、その後、札幌農学校の農場に組み込まれ、



サクシュコトニ川沿いの弓道場付近の発掘調査 (2006年)

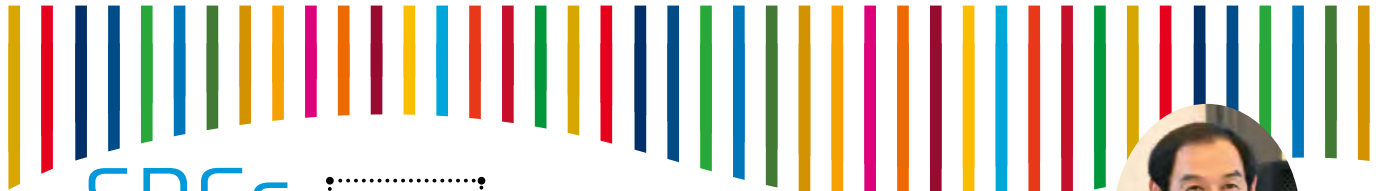
このように、アイヌ民族の生活、文化、歴史も織り込まれ続けていること、さらにはそこに重なるように現在の北海道大学の諸活動が成り立っていることが分かります。こうした人々の営み、文化の歴史の積み重なるの豊かさを考えるとき、「北海道大学所在地の先住民族に対する敬意の表明」の持つ意味は、たいへん重要であると実感します。ぜひ、表明の全文を読み、また、正門脇の銘板をチェックしてみてください。

札幌キャンパスの敷地として受け継がれることになりました。さらに遡ると、十七世紀にアイヌ民族が生業に使用していたと思われる木製漁撈具が、かつて流れていた川の川底から出土しています。附属図書館や恵迪寮のあたりです。札幌キャンパスの土地には、かつては複数の川が流れて、湧水地もあり、人々が生活や狩猟をするには格好の場所でした。そんな土地ですから、札幌キャンパスからは、人が生活し生業を営んでいたその活動の痕跡となる埋蔵文化財が多数出土しています。北海道大学埋蔵文化財調査センターによる長年の調査により、五千年前からこの地に人が活動していたことが分かっています。発掘調査により出土した埋蔵文化財は、埋蔵文化財調査センターが保存しており、そ



遺跡保存庭園の入口 (2014年)

の一部は展示しています。また、キャンパス内には、八世紀以降の竪穴住居址を保存した「遺跡保存庭園」(北十七〜十八条西十二丁目)もあります。



SDGs

連載 第13回

ウェルビーイング時代の統治モデル -SDGsを超えて



北海道大学SDGs事業推進部門 教授 加藤 悟

SDGsは2030年までの達成目標である。2030年まで残り4年となり、ポスト2030の枠組みに関心を寄せる人も増えてきた。そのキーワードとして挙げられるのが「ウェルビーイング」である。しかし、それが単純にSWGs(Sustainable Well-being Goals)という形になるわけではない。

国連欧州経済委員会(UNECE)が2025年に提示した「ウェルビーイング測定ガイドライン(Guidelines on Measurement of Well-being)」は、10の分野とそれぞれの指標から構成されている。具体的には、主観的ウェルビーイング(生活満足度など)、物質的生活状況(貧困など)、仕事と余暇(失業など)、居住環境、健康(寿命など)、知識と技能(教育状況など)、身体の安全(犯罪率など)、社会的つながり、市民参加(投票率など)、生活環境(安全な水の確保など)である。これらは、現行のSDGsを10分野に再整理したものに近い。

また、国連統計委員会(United Nations Statistical Commission)の下に2024年に設置された「ウェルビーイング測定専門家グループ(Expert Group on Well-Being Measurement, EGWM)」は、「包摂的かつ持続可能なウェルビーイング枠組(Framework for Inclusive and Sustainable Wellbeing, FISW)」の策定を進めている。この枠組みでは、仕事、住宅、デジタル、主観的ウェルビーイング、横断的複合指標、環境、健康、教育などについてタスクチームが組成されている。

さらに、2024年9月には国連未来サミット(Summit of the Future)が開催された。SDGsの達成の遅れや国際秩序の分断を背景に、多国間主義(multilateralism)の再構築を目指した会議である。このサミットでは「未来のための協定(Pact for the Future)」が採択され、「Beyond GDPに関するハイレベル専門家グループ(High-Level Expert Group on Beyond GDP, HLEG)」の設置が決定された。同グループは2025年5月に発足している。

HLEGは2026年5月、最終報告書『Counting What Counts: A Compass of Progress for People and Planet』を公表した。その中核をなすのが「共通ダッシュボード(Beyond GDP Dashboard)」である。現在、この報告書を基に各国で正式な議論が始まり、国レベルでのパイロット実施が検討されている。このダッシュボードは、FISWの考え方を政策評価ツールとして具体化したものと位置づけられる。

Beyond GDP Dashboardは、約30の指標から構成され、なお検討の途上にある。内容としては、「人々の生活」「社会の公平性」「地球の持続性」を同時に測定する、いわば「コンパクト版SDGsダッシュボード」と言える。概念的には、大きく四つの観点に整理することができる。

第一は「基盤(Foundational Principles)」であり、平和、人権、地球環境に関わる指標群である。第二は「現在のウェルビーイング(Current Well-being)」で、生活、仕事、健康、教育、安全、主観的ウェルビーイングなどに関する指標を含む。第三は「公平性・包摂性(Equity and Inclusion)」で、所得格差、貧困、ジェンダー格差、地域格差などが対象となる。第四は「持続可能性・レジリエンス(Sustainability and Resilience)」で、生産資本、人的資本、社会資本、自然資本といった将来世代に関わる資本の蓄積が重視される。

SDGsが17の目標と169のターゲット、そして約230の指標によって構成される「ゴール設定型」であったのに対し、HLEGの提案は「指標測定型(インデックス型)」である点に特徴がある。国連は、これらの指標について各国による継続的な公表を促すとともに、政策や国家予算への組み込み、政策評価への活用を進める方向で議論を進めている。

すなわち、世界共通のゴールを設定するのではなく、測定を通じて各国が自国の実質的な目標を設定し、その達成を促す仕組みへと転換しようとしているのである。さらに、これらの指標には主観的要素も含まれており、人々の意識を含めた統合的な政策評価という新たな視点が加わっている。

SDGsの課題は、ターゲットが多岐にわたりすぎ、分野ごとに分断され、政策運用上扱いにくかった点にある。今回の動きは、国際目標の提示ではなく、指標に基づいてPDCAサイクルを回す仕組みへと転換する試みであると言える。

Beyond GDP	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
平和・人権																	
気候・自然																	
生活・所得																	
健康・寿命																	
教育・能力形成																	
安全・安心																	
主観的幸福																	
社会的つながり																	
制度・政府信頼																	
生活環境																	
公平性と包摂																	
持続可能な資本																	

Beyond GDPとSDGsの関係性整理 (筆者作成)

クラーク書籍便り Vol.27

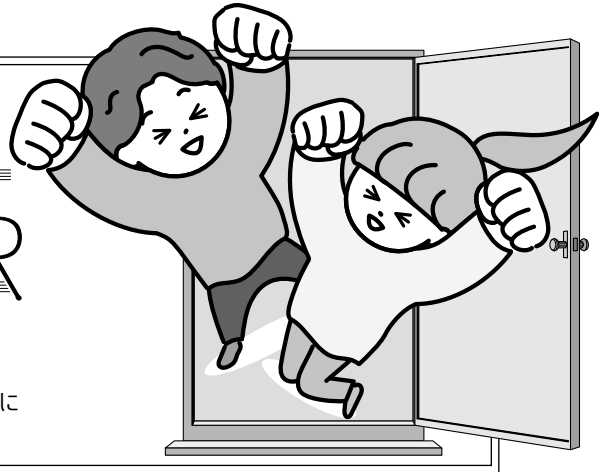
クラーク4月・5月一般書ランキング

4位「過疎ビジネス」は過疎にあえぐ小自治体を食い物にする「過疎ビジネス」の実態を明らかにした、地方紙記者の手になる調査報道の傑作で、新聞労連ジャーナリズム大賞ほか3賞受賞。昨夏の刊行ですがまだ読まれています。5位「フェミニズム」は上野千鶴子と並ぶフェミニズム研究の第一人者による通史。フェミニズムの思想と運動の歴史を長期的な視点からわかりやすく説く、質の高い入門書です。

	書名	著者名	出版社		書名	著者名	出版社
1	TOEIC L&R TEST 出る単特急金のフレーズ	T E X加藤	朝日新聞出版	6	ワイトゲンシュタイン	飯田隆	筑摩書房
2	思考の整理学	外山滋比古	筑摩書房	7	福音派 - 終末論に引き裂かれるアメリカ社会	加藤喜之	中央公論新社
3	公式TOEIC Listening & Reading問題集12	Educational Testing	国際ビジネスコミュニケーション協会	8	北海道樹木図鑑	佐藤孝夫	垂璃西社
4	過疎ビジネス	横山勲	集英社	9	ユダヤ人の歴史	鶴見太郎	中央公論新社
5	フェミニズム	江原由美子	岩波書店	10	北海道の生活史	岸政彦	北海道新聞社

院生 NEXTDOOR

第3回



北大生のおよそ3人に1人が大学院生。

「院生の生活ってどんな感じ?」「どんな研究をしているの?」

身近にいるけど、実はあまり知らない院生のリアルを、現役の院生に紹介してもらいました。あなたの身近な院生が登場するかも…?

文学院

研究だけではない院生生活の豊かさを味わう

北海道大学大学院 文学院 映像・現代文化論研究室博士後期課程 2年 成瀬 真己 杜



わたしが北大に入学したのは2019年=令和元年のことなので、令和8年の今年わたしの北海道生活も8年目です。学部時代は理学部の数学科に所属していたのですが、コロナ禍の影響で就職にも身が入らず、代わりにおうち時間にはよく人文系の本を読んでいたので、大学院は文学院に進学することにしました。日本の近現代文学やサブカルチャーをジェンダー/セクシュアリティの視点から研究しており、博士課程ではいわゆるBLの前身である『JUNE』という雑誌を研究対象にしています。

大学院に入る前から「大学院生は孤独である」というイメージを抱いていたので、「研究のみに軸足を置かないこと」を大事にしながら院生生活は過ごしてきました。特に人文学では本との出会いと同様に人との出会いも重要になります。学部から所属しているサークルや学外の社会運動、語学や占いといった趣味や、研究とは少し外れた執筆活動にも力を入れています。

もちろん研究についても手を抜かず、それでいて自分のペースで少しずつでも前進する感覚を楽しむつもりで励んでいます。と言いつつ、去年は社会運動を頑張りすぎて少し研究はサボってしまったかな、と自覚しているので(笑) 今年学会発表や資料調査の計画をしっかり立てて研究に臨みます!



方もいるかもしれません。損害保険の契約をするとき、補償内容の書面は普段使い慣れない言葉や文体が多く、理解しづらいのが現実です。契約の際は、代理店が補償内容や保険料のプランをわかりやすい言葉で説明するので、契約者と代理店のやり取りの中で最適な相互に納得感のある契約にしたいものです。

これまで事故がない方にとっては、保険料がまるで無駄金のように思えるかもしれません。一方で、実際に事故や火災に経験した方は、「加入していて本当に良かった」と実感されているはず。この「あの特約を外すべきではなかった」、もしかすると「あの時解約しなければよかった」と後悔している

自動車事故による高額な損害賠償は、加害者とその家族の人生を大きく狂わせます。だから多くの方が自動車保険に加入しています。また、「せっかくなので購入した我が家が火災に遭ったら大変だ」という思いから、火災保険にも加入します。

聞こえてくることも少なくありません。損害保険は「一人は万人のために、万人は一人のために」という相互扶助のしくみで成り立っています。損失を被る可能性のある多くの人々がお金を出し合っていて大きな共同の資金を作り、実際に災害や事故に遭った人へそこから保険金を支払うシステムであり、万が一のときの家計が破綻するほどの巨額な損失を被るリスクを回避します。だから、「ええい、やめてやらあ」というわけにはいきません。

ここ数年、自動車保険や火災保険などの損害保険が、度重なる料率改定により、保険料の値上がりが続いています。3年や5年の長期契約の場合、保険期間中の料率改定の影響を受けず保険料が据え置かれるものの、更新時には上がり幅が大きくなります。古い建物の火災保険の場合、損壊のリスクが高いということでもさらに負担が増える傾向にあります。お客様との更新の場面で電話越しにため息が聞こえてくることも少なくありません。

ほけんのお話



北海道協同保険サービス 生協会館店1階

(平日)11:00~17:00 (閉店~土・日・祝・年末年始)

TEL 011-726-0441

FAX 011-746-9065

Eメール hoken.cls@univ.coop

Vol. 47

北大生協には「学生・院生・留学生・教職員」の4つの組織委員会があります。

北大生協組織委員会報告

学生委員会

■履修相談会MANAVI

4月4日、5日に全体説明会、4月8日～4月10日には個別相談会をしました！全体説明会では履修登録の際に気をつけるべきことを紹介し、個別相談会では1対1での質問対応を行いました。全体説明会には2200人、個別相談会には218人の新生入生に参加していただきました！他にも「MANAVI+」の作成を行いました。

■春友祭

4月4日、5日に「春友祭」を実施しました！他の新生と交流できるレクリエーションや北大に関するクイズを行いました。2日間通して1081人の新生に参加いただきました！

■受験生歓迎活動

2月23日、24日、3月11日に試験本番前の受験生と北大生が話す企画「北大生と話そう」をクラーク食堂や札幌市内のホテルで実施し、3日間で272人の方に参加していただきました！また、受験生応援冊子「いな蔵」の作成も行いました。

院生委員会

■新入院生歓迎会を開催しました！

4月18日(土)に生協会館3階会議室にて、新入院生歓迎会を開催しました！北海道大学大学院は、修士課程の時期に、他大学から入学される方が多い大学院です。そういった方たちを対象にし、歓迎会を実施しました！

参加者は院生委員3名、博士課程1名、修士課程9名の13名で、研究内容や北大近辺のお店の話で盛り上がりました。13名のうち、院生委員も含め10人が修士1年であり、他大や高専からの新入院生は5名でした。北海道大学に決めたきっかけは様々で、北大の新たな魅力を教えてもらいました！

院生総代の目標定数は40名で、前年度から10名増え、集まるかどうか不安でした。新入院生歓迎会をきっかけに院生委員に興味を持たれる方がおり、総代会当日に多くの院生が、議案書へ意見してくださっていました。改めて、院生委員会は、北大院生と生協をつなぐ窓口であることを認識しました。

院生交流会は偶数月に行います！ご参加をお待ちしております！

留学生委員会

■ウエルカムパーティーを開催しました

4月17日(金)に中央食堂2Fにて、ウエルカムパーティーを開催しました。今回は約45名の学生たちが参加し、例年よりも日本人学生の参加が目立ちました。豆つかみゲームやビンゴゲームで会場は大盛り上がりし、参加者の皆さん同士の活発な交流も行われました。次回のご参加もお待ちしております！



パーティー中歓談の様子

■自転車譲渡会を開催しました

5月18日(月)に桑園自転車保管場にて、留学生向けの自転車譲渡会を開催しました。これは札幌市が保有する放置自転車を留学生に無料(※防犯登録料負担あり)で受け渡す事業で、每学期大好評のイベントです。今回は24名の留学生に自転車譲渡されました。新しい自転車と素敵な北大生活を送ってください！

教職員委員会

■教職員総代会議…3月10・11日、4月14・15日、5月12・13日にWEBと対面にて開催いたしました。

決算報告や、総代選出、工学部食堂の混雑、理学部ショップの24時間営業についてのご意見を頂きました。

■教職員委員会…3月12日、4月16日、5月12日に定例会議を開催し、きぼうの虹の編集・次年度総代募集などについて話し合いました。

■「きぼうの虹」…この冊子です。毎回Onionや特集ページなどで、多くの教職員の方にご寄稿をいただいています。

【編集後記】

5月の総代会において、昨年度の経常剰余が黒字となったことが報告されました。黒字決算は、胆振東部地震前の2017年度以来8年ぶりとなります(大学生協共済連の解散に伴う残余財産分配により多額の事業外収益が計上された2022年度を除く)。今回の黒字化は、組合員の皆さんの日頃の利用に支えられた結果であると思います。今年度も食堂や購買、書籍、共済など、生協を積極的に利用することが、学生・教職員の生活を支える生協の力につながります。

北海道大学は今年、150周年を迎えます。これからも北大生協が学生・教職員にとって身近で頼れる存在であり続けることを願うとともに、組合員の一人として生協を応援していきたいと思えます。

北大生協『きぼうの虹』フォトコンテスト

テーマ 「北大百景 2026」

たくさんのエントリーをお待ちしています。

作品募集!

募集期間

7/1^水~8/31^月



特選1名、入選4名

副賞：北大生協電子マネーポイント

特選 5,000pt・入選 2,000pt



応募要項

- ①参加資格：北大生協組合員であること
- ②募集期間：2026年 7月1日(水)～8月31日(月)
- ③賞：特選1名、入選4名
- ④副賞：北大生協電子マネーポイント (特選 5,000pt、入選 2,000pt)
- ⑤応募方法：お一人様1点に限らせていただきます
 - (1)Web サイトから応募
 - (2)投稿フォームに必要事項登録の上ファイル(投稿写真、jpg)を添付してください
 - (3)画像ファイルは5MB以内(デジタルカメラ・スマートフォン等の媒体は問いません)
 - (4)北海道大学および北海道大学生協に関するモノであることを
 - (5)生成AIを利用して生成された作品やVR(仮想空間)で撮影した作品は応募できません。
- ⑥結果発表：
 - 教職員組織委員会機関誌『きぼうの虹』およびホームページで発表
 - なお、入選された作品の応募者の所属と氏名を掲載させていただきます
- ⑦注意事項：
 - 応募作品に関する著作権及びそれと同等の権利は、応募者に帰属します。被写体に人物が含まれる場合、応募者本人の責任において事前に被写体の承諾を得る等、肖像権等の侵害の問題が生じないようことを応募の条件とします。
 - 北大生協は、全応募作品を応募者の承諾を要することなく無償で使用する権利を有しま

- す。以下の内容で応募作品を無償で使用する場合があります。
- 1) 各種出版物・広報宣伝物への掲載(機関誌、各種冊子、SNS、ホームページ等)
 - 2) 北海道大学の広報。誘致活動への利用の要望に対しての貸出
 - 3) 営利以外の目的で二次利用(複製、加工、上映、頒布)できるものとします
 - 4) 商用利用(カレンダー等)も、無償で使用します
 - ※北大カレンダーは横構図の写真のみ対象となります。
 - 5) その他、大学などから使用の要望が入ることがあります。
- 本フォトコンテストにご応募いただいた時点で、この規約にご同意いただいたものとみなします
必ず、応募要項をご確認ください

⑧お問い合わせ先：

北海道大学生協同組合 理事会室
 TEL：011-746-6218 (平日) 10:00～17:00
 E-mail：seikyou@coop.hokudai.ac.jp



応募はこちらから

北大生協 フォトコン

検索

主催：北大生協教職員委員会